



(大阪西北部)

遺跡は、主に荒木村重によって整備された有岡城「惣構え」と、酒造業を中心に発達した近世町場の遺構で構成されている。

今回の調査は、浄土宗撰取山遍照院光明寺の旧本堂の一部と墓地跡を対象とするもので、近世墓一五〇基以上を調査した。

木簡は一辺約五四cm高さ

兵庫・有岡城跡・伊丹郷町遺跡

ありおかしよう
いたみごうちよう

- 1 所在地 兵庫県伊丹市宮ノ前二丁目
- 2 調査期間 第一一四次調査 一九九二年(平4)七月～一九九三年一月

- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

- 4 調査担当者 岡崎正雄・西口圭介

- 5 遺跡の種類 寺院跡・墓地跡、城跡

- 6 遺跡の年代 六世紀～一九世紀

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、主に荒木村重によって整備された有岡城「惣構え」と、

酒造業を中心に発達した近世町場の遺構で構成されている。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『有岡城・伊丹郷町遺跡Ⅲ』(兵庫県文化財調査報告二〇七、二〇〇〇年)

(西口圭介)

約八八cmの直方体の座棺SX二二八より出土した。棺内には遺体が座ったものか、球形の竹籠状製品がひしゃげた状態で入っており、木簡はその上より文字面を内側に二つ折りにした状態で出土した。極めて正確に二つ折りされており、人為的に折られたと考えられる。棺内からは他に櫛・六道銭(寛永通宝)・数珠玉が出土している。墓の時期は、一八世紀末から一九世紀前半までであろう。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「空海か心の中に咲花は

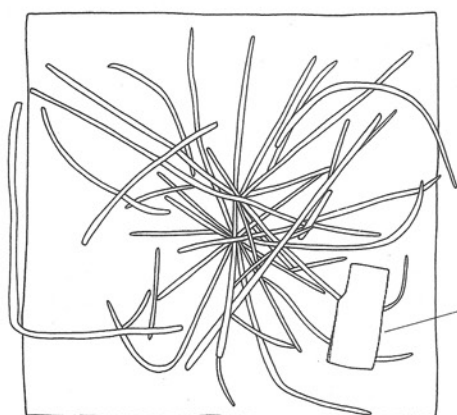
為

阿弥陀より外にしるぞなし」

290×55×0.3 011

頭部を圭頭にした非常に薄い短冊型の木簡である。両側面を部分的に欠損しているが、ほぼ完存する。墨書とほぼ同じ文言(阿弥陀ではなく弥陀とする)が、弘法大師のご詠歌として知られている。

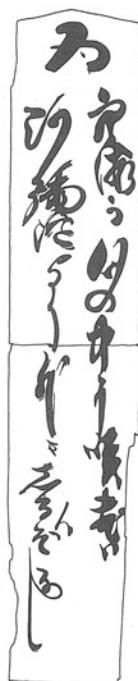
木簡の釈文については、兵庫県立歴史博物館のご教示を得た。なお、報告書では、本木簡を『往生要集』の一節とする記載があるが、誤りである。



木簡出土地点

0 50cm

木簡・竹簡状製品の出土状況



(明石・須磨)

3 発掘機関 一 三
明石市教育委員会

四月、七 一九九六年
四月～五月、八 一九九
六年八月～一〇月、九
一九九六年九月～一〇月、
一〇 一九九九年一〇月
～十二月、一一 二〇〇
一年三月～四月

2 調査期間

一(第一次調査) 一九八五年(昭60) 一月～二
月、(第三次調査) 一九八六年五月～七月、二一
九八七年九月～十二月、三 一九九〇年(平2)
八月～一〇月、四 一九九一年一〇月、五 一九
九一年一〇月～十二月、六 一九九三年一月

1 所在地

兵庫・明石城 武家屋敷跡

一(第一次調査) 兵庫県明石市天文町、一(第三次
調査)・六 兵庫県明石市東仲ノ町、二・七 一
兵庫県明石市山下町、三・五 兵庫県明石市
大明石町、四 兵庫県明石市本町